

## (2) - 1) ①オオムラサキの森活動による保全と地域づくり（埼玉県川比企郡嵐山町）

国蝶オオムラサキがすむ雑木林を守り育てていこうと県民休養地ではじまった「オオムラサキの森づくり」の活動。観光イベントとして観察会の開催や、地酒「おおむらさき」等の特産品開発も行われており、地域C I<sup>1</sup>のシンボルとして市民団体から行政施策に至るまで幅広く地域づくりに活用されている。

### a. 取組の背景と経緯

埼玉県比企郡嵐山町の都幾川周辺は、穏やかな起伏を持つ丘陵地にさまざまな自然の姿を見ることが出来る地域として、1982年に埼玉県の県民休養地に指定された。

埼玉県ではこの地域で国蝶であるオオムラサキの生息が見られることに着目し、オオムラサキをテーマに県民休養地内に自然と親しむエリアを計画。1988年官民協力のもとでオオムラサキの森とオオムラサキの森活動センターが設置され、保全活動が始まった。



写真:取組の拠点となっているオオムラサキの森の風景（嵐山町役場ホームページより）

### b. 活用方法

#### ■観光や特産品への活用

比企地域の代表的な観光スポットとしてPRされており、オオムラサキの森活動センターには年間1万人に上る来訪者数になっている。

また、ネーミング・イメージを利用した特産品の事例として、嵐山町内の田んぼの米と天然水を使用した地酒などがある。

#### ■地域イベント活用

NPO法人自然の会・オオムラサキによる自然学習・観察会が開催されるなど、地域イベントのテーマとして活用されている。同会により、町外の方も参加可能な活動が行われ、オオムラサキをテーマにした交流とネットワークが広がっている。

#### ■森づくり活動推進のシンボルや地域PRテーマとしての活用

オオムラサキデザインのおみやげ等も作成し、地域内外へのPR効果もある。その他に行政ではチョウをテーマにする地域C Iを推進しており、駅周辺地域の再開発等において蝶の里の玄関口としてふさわしいイメージづくりの推進を図っている。

<sup>1</sup>地域を構成する自然、文化、産業、生活などに内在する資源を調査分析し、その地域にもっともふさわしいシンボリックな資源を戦略的に創造して、より魅力的な地域らしさを形成する手法のこと。

### c. 保全活動と野生生物への効果

当初行政（埼玉県）の呼びかけから始まった本取組は、オオムラサキという一般にも理解しやすく親しみやすい生きものをテーマにしたことで、住民にも浸透し、保全保護や森づくり・地域づくりに取り組むNPOが設立されたりするなど、保全活動団体の活性化につながっている。

また、蝶の生息拠点整備やビオトープとしての緑や水系の保全にかかわる公共事業が計画・実施されるようになっており、蝶の里づくりに関する条例などの法整備も進んでいる。